

文化翻訳の 過去・現在・未来



目
程
場
所

2023年5月26日(金) 16～18時

京都大学吉田キャンパス本部構内 白眉センター

(学術センター) 地下会議室 [下記地図 61番]

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-y>

地図のQRコードは右の通り

日仏東洋学会後援



歴史認識論の観点から近代化と近代以前を考える——人類史的認識革命時代としての明治期日本、その「前」と「後」、およびその「外側」

彌永信美

本発表は大きな研究プロジェクトへの呼びかけのようなものである。概念は人間の意識の中で作り出される巨大な体系である。認識の道具である概念体系は、歴史の中で変化する。それゆえ、人間の認識のあり方の歴史を、概念やことばの歴史を通じて、研究できるはずである。その具体例として考えられる明治期日本は、欧米の（「最先端」の）概念体系をシステマティックに移植し、それによってそれ以前の概念体系を喪失した。明治期日本は、「非ヨーロッパ世界」が、半自発的に「近代化」した最初の例であり、他の地域の近代化のモデルとされた（少なくとも漢字文化圏において、そしておそらく他の地域においても）。その意味で、これは人類史的な認識革命の時代と考えることができる。この近代化によって何が獲得され、何が失われたのか、またそれはどのようなプロセスだったのか。そのことは、日本だけでなく、（非ヨーロッパ世界、またヨーロッパ世界も含む）他の地域にかんしても問われなければならないだろう。



1948年東京生まれ。仏教学、比較文化史。フランス国立高等研究実習院（EPHE, Paris）中退、元フランス国立極東学院（EFEO）東京支部代表。代表作に『幻想の東洋——オリエンタリズムの系譜』上・下（ちくま学芸文庫、2005年）、『歴史という牢獄——ものたちの空間へ』（青土社、1988年）、『大黒天変相——仏教神話学1』（法蔵館、2002年）、『観音変容譚——仏教神話学2』（法蔵館、2002年）ほか。

コメントにかえて

17:00-17:15

文化的衝突をどう受容し語りうるのか——『殉教の日本』（名古屋大学出版会、2023年）出版に寄せて

小俣ラポー日登美

十六世紀に始まった日本へのカトリックキリスト教の宣教は、一つの文化で通用していた概念が、全く異なる文脈に根付くための実験場のような機会を提供することになった。この時、概念の翻訳は、必ずしも平和的な文化的交流に伴ったわけではなく、異文化や他者の排除に惹起された迫害によっても進められるようになった。その最たる例が「殉教」である。現在、歴史叙述に不可欠となったこの術語の用法をめぐり、その背景にある日本と西欧カトリック世界の過去・現在を考察する。



2016年にフランス国立高等研究実習院（第五部門）博士号（宗教学）、ならびにスイス・フリブル大学文学部博士号（近世史学）。専門はカトリックキリスト教思想史。2021年から京都大学白眉センター特定准教授（同人文科学研究所所属）。代表作に *From the distant Indies to the scenes of colleges: the reflections of the Japanese Martyrs in Europe (16th-18th century)*, Aschendorff, 2020（原文仏語）、「キャンセル・カルチャーの標的となる歴史概念」（『現代思想』2023年）ほか。本集会を、副題の書籍の出版記念合評会代わりに企画。

特別講演

17:15-17:30

計算機科学者の見る世界——翻訳可能性とモデル化を通じて

包含

計算機科学は21世紀の情報技術社会を支える学問のひとつであるが、その歴史は1世紀にも満たない先駆的な学問分野である。しかし、それゆえにプラグマティックな面が強調されすぎるあまり、計算機科学が我々に知識として何を提供するのか、我々の文化的価値観とどのように競合するかに対して無自覚であることが多い。本発表では、計算機科学における翻訳可能性とモデル化という2つの話題を通じて、数学・論理学だけでは割り切ることのできない計算機科学の直面する課題について論じたい。



1995年生まれ。2017年に東京大学理学部情報科学科卒業。2022年に東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻博士課程修了。博士（情報理工学）。2022年から京都大学白眉センター特定助教（および同情報学研究科所属）。共著書に *Machine Learning from Weak Supervision: An Empirical Risk Minimization Approach* (MIT Press, 2022年) がある。https://hermite.jp/post/ における論考では、最先端技術の研究者でありながら、人文社会学への深い造詣に裏打ちされた、文系研究者顔負けの鋭い思索を展開。

総合討論

17:30-18:00

物志、有鳥名、越、大如、孔雀、啄、八十、黄、白、里、也、北、如、人、益、鮮、明、多、持、此、飲、酒、又、笠、法、直、登、羅、山、流、三、一、状、似、獸、口、向、未、可、受、二、味、汗、南、人、南、園、三、角、三